

公開シンポジウム

「生活によりそう家政学 -衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ-」

日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会は、平成30年10月27日（土）13:30～15:30に、日本生命科学アカデミーの後援による公開シンポジウム「生活によりそう家政学 -衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ-」を日本女子大学において開催した。被服学の科学分野を支えてきた衣料管理士の資格を取り上げ、1級衣料管理士を養成する4年制の13大学およびその卒業生を対象にアンケート調査(回収率100%)を実施し、その結果により1級衣料管理士資格の問題点と今後の課題を分析し、被服学に関する資格教育の在り方や望ましい被服学教育について言及した。当日の参加者45名からは賛同する意見が多く寄せられ、被服学教育で養成する衣料管理士資格の社会における有用性や認知度をさらに高める必要があること、教育内容や資格の認定方法等についても再検討する時期に来ていることが共有された。



公開シンポジウム

「生活によりそう家政学 -衣生活を支える被服学における資格士教育の位置づけ-」

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会

後援：日本生命科学アカデミー

日時：平成30年10月27日（土）、会場：日本女子大学

1. はじめに

小川宣子（日本学術会議第二部会員、中部大学応用生物学部教授）

2. 衣料管理士について

薩本弥生（日本学術会議連携会員、横浜国立大学教育学部教授）

3. 被服学教育の現状と課題

多屋淑子（日本学術会議連携会員、日本女子大学家政学部教授）

4. これからの被服学教育

片山倫子（日本学術会議特任連携会員、東京家政大学名誉教授）

5. おわりにあたって

宮野道雄（日本学術会議特任連携会員、大阪市立大学特任教授・学長補佐）